

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果は、国語・算数とも平均を大きく下回った。内容で見ると、国語では「読むこと」、算数では「図形」と「データの活用」の正答率が特に低かった。また、問題形式別に見ると、国語・算数ともに、記述式の問題の正答率が低かった。

○「全国学力・学習状況調査」の児童質問調査では、授業の内容理解や勉強への意欲、家庭学習の習慣に課題が捉えられる。

○「RST」の結果から、文の基本構造を把握することや2つの文の意味が同一かを判定すること、理数系の定義を読み解くことなどに課題が見られた。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○獲得した知識・技能を活用しながら問題を解決し、基礎・基本の定着を図る必要がある。

○自ら考え、主体的・協働的に学習に取り組む。

○INPUT, THINK, OUTPUTの流れに沿って、文章や資料から情報を確かに読み取り、それらを活用して自分の考えをまとめ表現する力の育成が必要である。

○自分の考えを伝え合い、考えを広げ深める活動の充実を図る。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○基礎・基本の定着 個別最適な学び 主体的な学び 協働的な学び

- ・子どもの興味、関心、考え、思い、よさ、多様性などを尊重して生かす。
- ・授業のユニバーサルデザイン化と個に応じた支援を行う。
- ・「つかむ→見通しをもつ→調べ考える→まとめる（→いかす）」単元を見通した問題解決的な学習を推進する。
- ・授業規律、聞き方・話し方の徹底を図る。
- ・個に応じた学びの支援を行い、一人一人の発言や考えを大切にする。（多面的・多角的で深い子ども理解）
- ・見通しと振り返りの場を大切にする。
- ・校内研究を充実させる。
- ・家庭学習の充実を図る。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び
板橋区授業スタンダードSの取組

○1時間の授業の中で「INPUT, THINK, OUTPUT」を設定し、問題解決的な学習過程に沿って、読み取り、考え、表現する活動をセットにすることで学びの質の向上を図る。

○児童が学習課題や資料、方法などを自分で選んで決定する場面を設け、主体的な学びを実現する。

視点2

ICT環境の適切な維持と活用
個別最適な学び・協働的な学びの実現

○一人一台端末を活用し、学習の進め方を選ばせたり、各自の学習した内容を即時に把握・評価したりして、個別最適な学びの充実を図る。

○一人一台端末を活用し、個人の考えの発表や集団での考えの共有・検討を充実させて、協働的な学びを進める。

視点3

総合的な学習の時間との連携

○学校や地域の環境を活用しながら、子どもの疑問・関心・問題意識から課題を立て、情報を集めて整理・分析し、まとめて表現したり実践したりする探究的な学習を行い、「主体的に追求し、自分たちができることを考え、実践できる力」を育成する。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進

○保幼小の円滑な接続に向け、入学当初において「スタートカリキュラム」を編成し、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定を行うなど、指導の工夫に努める。また、その際、幼稚園・保育園での学びを小学校にも生かせるように十分配慮する。また、第1学年生活科において近隣の幼稚園・保育園との交流、連携を図る。

○義務教育9年間を見通した単元配列表を作成し、既習事項の活用や、以後の学習への関連を意識した指導を計画的・意図的に行う。また学びのエリアでの情報共有・研修会を充実させ、小中9年間を見通した学習指導や生活指導のあり方について研修を深め、実践化を図る。

豊かな心と健やかな体の育成

○人権尊重の理念を基に、道徳、特別活動等を中心に、「すべての人々の幸せを考える」学習である福祉教育の視点を大切にして、全教育活動を通して自他の多様性を認め尊重し合い、共によりよく生きる社会づくりに参画しようとする心や資質・能力の育成を図る。

○道徳科を要に全教育活動を通して道徳教育の充実を図る。なお、自他を尊重し合い、社会の一員として共によりよく生きることにに関する内容項目を重点とする。

○特別活動においては、自主性、協働、話し合い活動における合意形成、異学年や多様な他者とのかかわり、よりよい学級・学校づくりへの参画などを重視しながら、自他の違いやよさを認め尊重し、共によりよく生きようとする資質・能力の基礎を養う。

多様な教育的ニーズへの対応

○特別支援教室に在籍している児童に対しては、同教室担任と在籍学級担任との連携を密にしながら、個別指導計画、学校生活支援シートを作成し、日々の指導の中で実践、活用していく。あわせて、障がい等の状況に応じて合理的配慮を行い、すべての子どもたちが安心して自分のもてる力を発揮し、伸ばしていくことができるようにする。

○不登校の子どもの状況に応じて、電話や一人一台端末（Meet、Classroom、AIドリル）の活用、家庭訪問等、方法を工夫して子どもや保護者との定期的なつながりを継続していく。